

情報基盤センター

教職員写真同好会 伊藤仁浩



発行所
北海道大学生協同組合
札幌市北区北8条西7丁目
教職員委員会編集
電話 011-746-6218

主な記事紹介

- 四画 台湾通信 第2回
- 五画 文化財(予備軍)へ行こう 第1回
- 六画 こころの健康を考える② 怠りなき生活習慣

北大台湾同窓会 菅 大志
 北海道大学北方生物園 加藤 克
 フォイールド程センター植物園
 北海道大学院 渡邊 誠
 教育学研究院

今の学生さんも同様かと思いがすが、私は学生の頃、大学で過ごす毎日とは、授業に出ること、友達に会うこと、生協のお店に行くことでした。

私が学生の頃の北大生協は、文具、書籍、食堂はもちろん、生鮮食品、オーデイオ機器、衣料品、スポーツ用品もあり、必要なものは生協だけですべて揃いました。食堂は当時から朝食も夕食も食べられる営業時間で、周りには店も少なかったこともあり、まさに大学生協なしでは生活出来なかったように思います。

この数十年で街は大きく変わり、札幌駅や北大の周辺にもお店が増えました。衣料品、スポーツ用品、そして家電、家具といったものは専門店がその物量と価格で圧倒し、大学生協に求められる商品群ではなくなりました。コンビニも増え、またネットの普及により、航空券や宿泊手配、書籍をはじめ、印刷や保険商品に至るまで、ネット購入が当たり前といった状況です。もちろん北大生協の供給高も減少してきました。さらにこの夏には構内に初めてコンビニがオープンすることになっています。

周辺のお店やコンビニ、ネットなどが便利になっていくにつれて「生協じゃなくても良いのでは」

生協で楽しい大学へ

酪農学園生活協同組合
 専務理事
 (前職 北大生協 理事会室室長)

片木 圭二

Opinion!



「他の業者が入った方が便利になるのでは」という意見も聞かれます。生協職員にとっては厳しい意見ですが、組合員にとっては率直な感想だと思います。ただ大学生協でなければならぬ事、大学生協だから出来るということがあるのでしょうか。

昨年、北大生協で行ったいろんな取り組みの中の、1月に食堂で出食した「組合員考案メニュー」。11月に応募を募り、翌月投票も行つて、組合員の方が考えたメニューを組合員の皆さんに食べてもらえるように食堂で出食しました。自分で考えたメニューをお店で出してもらえるとワクワク感、みんなに投票してもらって決められるというドキドキ感。少

しても「私たちのお店なんだ」と思ってもらえたのではないのでしょうか。

もう一つ、大学と一緒にすすめた「自転車マナー」の取り組み。構内での自転車マナーが悪く、ケガや事故が発生していることを何とかしようと、大学と生協が一緒になって、マナー向上を呼びかけました。自転車事故でケガをしない、させない様に、生協学生組織委員会は広報誌や食堂テーブルなどでの呼びかけを行い、また自転車点検会も実施し、あわせて構内で危険だと思ふ箇所アンケートも実施しました。そして大学も、学生にケガをして欲しくないという想いで構内の看板設置や電子掲示板での呼びかけを行いました。

二つの取り組みとも、組合員が自ら参加してつくったこと、何より「楽しく」取り組んだこと。こういった楽しい取り組みは、大学を楽しくしてくれていると感じています。

大学を楽しくすることが出来ること。そして組合員の皆さんが参加して、自分たちがお店に関わっていく、そして大学とも協力して、同じ方向を目指して一緒にすすんでいく。大学生協に関わることで、組合員みんなが楽しく、より良いキャンパスをつくっていくのと良いですね。

を開催しました。

大学の福利厚生の一部を安心して任せただけの北大の生協づくりをめざします。また身近で役に立つ、やさしい生協づくりをめざします。そのために学生生活の変化や組合員の要望を捉え、大学とも協力しながら改善に結びつけます。

5月24日、工学部オープンホールにおいて北大生協2018年度通常総代会が開催されました。総代会は、総代211名（実出席63名、書面議決110名）の参加により、すべての議案が賛成多数で可決成立いたしました。



2018年度総代会は5月24日(木)開催

議長に浅田さん（教育学部学生）を選出し、柿澤理事長（農学研究科教員）が生協理事會を代表して挨拶しました。続いて、小笠原学生組織委員長（学生）が第1〜5号議案を提案、坂爪監事會議長（教員）が監査報告の後、直ちに質疑・討論に入りました。質疑は発言通告用紙による全体での質疑・討論（Aパート）を行いました。理事会からのまとめの後、総代173名（内実出席63名、書面出席110名）で採

決を行い、全議案を賛成多数で承認・決定しました。また、役員選挙は全候補者の当選が報告されました。



議案提案を行う
小笠原学生委員長



開会挨拶を行う
柿澤理事長



受付の様子

- | | |
|-------|-----------------------------|
| 第1号議案 | 2017年度事業報告・決算関係書類承認の件 |
| 第2号議案 | 2018年度事業計画及び、予算の件 |
| 第3号議案 | 生活協同組合連合会大学生協事業連合への継続加入決定の件 |
| 第4号議案 | 役員報酬限度額決定の件 |
| 第5号議案 | 議案決議効力発生件 |

いじわるじいさん

故桂枝雀の「千両みかん」で渾身の演技を見て以来、機会をみつけて落語を楽しんでいる▼先日大阪の「動楽亭」で聴いた桂ちゃんばの「ぜんざい公社」は、庶民の（あるある）の飛躍話だった▼国営のぜんざい屋に入った男。トは？と提示を求められ、ぜんざい食べるのに何で身分証明書なあかんのや、が振り出して、書類を書かされ、収入印紙を買わされ、料金は銀行振り込み、餅を焼くには消防署の許可が必要、生の餅なら健康診断を受けてくれ、といわれる始末。その上、メタバ解消の政府方針で、階段を上ったり下りたり：▼この嘶、古い演目らしいが内容は現代。保育所や老人施設等、公的施設を利用しようものなら、多くの書類と押印にうなされそうになる。間違えたら突き返される。役所が書き換えなどしてくれない▼やっとなんやこれ、汗がない！た男、焼かない餅入りの椀を見て叫ぶ。なんやこれ、汗がない！公社職員曰く「甘い汁は、当公社が先に吸っております」▼動楽亭のあの時、演者の熱がもたらに伝わる小さな寄席に笑いがはじけた。それはズバリ、森友・加計学園問題を思い出させる嘶だった。（今日子）

2018年度通常総代会

2017年度を振り返り、2018年度の計画等を決めました。
テーマ：『今こそ大学の変化をチャンスと捉え、組合員参加にこだわった取り組みへの変化を目指そう』

Bパートとして総代と生協職員との意見交換

その後会場を工学部食堂に移してのBパートでは、食堂、購買、書籍、トラベル+キャリアサポートの計4テーマに分かれて1時間程度職員と総代との意見交流会を行いました。各グループでは生協学生組織委員が進行役となり、各現場で働く生協職員とその現場に興味のある総代が参加しました。ここで出されたご意見・ご質問等は、理

事・組織委員会・生協職員により、今後の生協運営に活かしていきます。



総代会Bパートでは店長たちと活発な意見交流が行われました

2018年度の課題

購買では、ポイント企画などをはじめ、利用客数を増やす対策を旺盛に行います。また公費対応を強化し、研究室への訪問強化や電子購買システ

ムの活用をすすめます。

食堂では、企画メニューやフエアなどを中心に利用客数を増やす対策を行うほか、内製弁当の提供と、ミールカードの利用者を増やします。

書籍では、読書推進提案を強化するとともに、学生アンケートや教職員へのヒアリングなどをすすめて、品揃えの改善と強化を行います。

旅行・キャリアでは、学生に特化した語学留学の提案や就活支援の取



総代からの発言もあり、活発な討論を行いました

組を、ルームガイドではオーナーとともに住環境の改善と、留学生宿舍などの大学受託業務を成功させます。費用面では設備投資は緊急的なものみに限定し、職員の退職金の増額と修繕積立金の確保などで最終当期剰余を120万円確保する予算としました。

声をお寄せください

「ここを改善して」と気づかれたときなどにお知らせいただけるのたいへん助かります。店頭の「組合員の声」、生協ホームページ、メール seikyyou@coop.hokudai.ac.jp などへ活用ください。

2018年度役員名簿	
代表理事	相田 大輔
理事長	高橋真太郎
	柿澤 宏昭
専務理事	豊原 涼太
	稲垣 征哉
	小笠原明信
	岸本 敬一
	西岡 尚樹
	樋口 遥加
	安藤 亮博
	原田 佳子
理事	吉見 宏
	勝山 憲明
	寺澤 睦
	川上 豊
	羽山 広文
	工藤 勲
	三上 直之
	笠原 敏史
	高 泉 鼎
	谷 遼大
監事会議長	坂爪 浩史
監事	末永 和楓
	深井 智耶
	山本 幾巳
	久保 淳司



全ての議案が賛成多数で可決されました。



総代会Bパートでの交流の様子

台湾通信

「北大珈琲」と「北大紅茶」

北大台湾同窓会会員・北大台湾演習林百年祭発起人 菅 大志

北大と台湾の物語

私達の大先輩、札幌農学校の卒業生が最も早く赴いた、最も人数の多い場所、それが台湾でした。1895年から終戦までの半世紀にわたり、300人を超える先輩達が台湾へわたりました。

台湾総督府では「農業は台湾」の基本政策下において、開拓精神のもとに農学を修めた先輩達が重用されていたのです。特に、台湾の主要な農作物であった砂糖、米の生産に多大な貢献をした、新渡戸稲造博士（1881年卒）、磯永吉博士（1911年卒）の二人は「台湾砂糖の父」、「台湾米の父」として、台湾の恩人として今でも称賛されています。

新渡戸博士が、台湾総督府殖産局長となったのは1901年から二年半ほどでしたが、その絶大な影響力によって札幌農学校から台湾進出への太いルートができ、台湾総督府の農政分野において札幌農学校卒業生の独占状態となりました。

本稿で後に紹介する「北大紅茶」も台湾総督府の紅茶試験支所として1936年に開設され、初代・谷村愛之助博士（1915年卒）、二代・古市誠博士（1918年卒）、三代・新井耕吉郎（1925年卒）の三人が所長職を独占するような形で、栽培試験が行われていたのです。

台湾総督府の「農業は台湾」の基本政策は、早くから黒字に転じていることから300人の先輩達の活躍が伺えますが、新渡戸博士や磯博士でさえその出身校が北大であることは台湾では全く知られていません。先輩達が活躍したこの時代、北大は札幌農学校、東北帝国大学農科大学、北海道帝国大学と名称が変わったことも手伝って、台湾では北海道大学はほとんど無名なのです。私の地元、北大ゆかりの北大台湾演習林や紅茶試験支所があった水沙連ですら、北海道大学は無名なのです。

私は北大台湾同窓会会員として、このことがとても残念でならず、「北大珈琲」と「北大紅茶」を広告塔として、「北大と台湾の物語」を台湾人にも日本人にも知ってもらいたいと考えています。

北大台湾演習林とその事務室

「北大珈琲」が栽培されていた北海道帝国大学農学部附属台湾演習林は、1916年から1917年にかけて水沙連の仁愛村と埔里町の二ヶ所に創設されました。台湾演習林では1917年から1947年の30年間に、15人の台湾人を含む40人が教職員として勤務していました。台湾演習林主任として、籠田又平、遠藤誠護、斎藤良秀、菊地寛治、笹尾修道、城生鉄血、林平三、佐々木準長の8人がおりました。仁愛村の台湾演習林は人里遠く離れた山奥にあったため、事務室や苗圃などは町中に設けられました。これが1917年埔里町に創設された台湾演習林派出所です（写真1）。

台湾演習林派出所には、事務室、官舎、倶楽部、学生宿舎、倉庫、車庫、職員宿舎、休泊小屋などの建築物がありました。しかし、北大の引き揚げ後はこれらの建築物はほとんど活用されることなく取り壊されたり、火災で焼失したりしました。そんな中、事務室だけが百年の時を越え北大当時の面影を今に残しているのです。

この事務室は一見何の変哲も無い木造建築ですが、屋根が陶器製の瓦ではなく、金属板が菱形に葺かれています（写真2）。これは台湾の木造建築では極めて稀な屋根ですが、旧札幌農学校演舞場の時計台（写真3）や旧林学教室の古河講堂（写真4）の屋根に似ていることがわかりました。

次号ではこの台湾演習林事務室の屋根と北大の建築物についてご紹介したいと思います。



写真1：北大時代の台湾演習林派出所



写真2：台湾演習林事務室の屋根



写真3：旧札幌農学校演舞場の時計台



写真4：旧林学教室の古河講堂

文化財予備軍 へ行こう

第1回

～植物園の氷室の由来～

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園
加藤 克



北側から見た「氷室」

新シリーズの意図

昨年度の「文化財へ行こう」では、すでに文化財に指定されているキャンパスの建物、つまり残されることが決まっている建物の歴史を中心に紹介してきました。今年度は、文化財(予備軍)として、今後残されるかもしれないし、または改変や取り壊しになるかもしれない建物や景観について紹介してゆきます。北海道大学の魅力である景観をどのように残すか、どのように変えてゆくかを考える材料にさせていただきたいと考えています。

植物園の「氷室」の由来

第1回は、植物園の「氷室」を題材にします。植物園の南側



写真1: 高山植物園からみえる氷室

の非公開区域にあるため、植物園に訪れたことがある方でも、植物園にこの建物があることをご存知の方は少ないのではないのでしょうか。この記事が刊行される6月ごろに見ごろを迎える高山植物園への入り口にあ

る橋から見ることでできる建物が「氷室」(写真1)です。この建物は、「氷室」と呼ばれていますが、植物園では氷室として利用されていたという歴史は知られておらず、古くから植物の実験場所や資材庫(写真2)として、また冬期間の植物の保管場所として利用されてきました。それでは、なぜ「氷室」と呼ばれる建物が植物園にあるのでしょうか。

この「氷室」は、明治32(1899)年に現在の場所に建てられました。しかし、当時この場所は植物園の用地ではなく、また北海道大学の土地でもありませんでした。植物園は明治19(1886)年の設立から現在の場所で活動してきていますが、周辺の小さな区画が徐々に加えられながら現在の形になってきました。「氷室」のある小さな区画も昭和33(1958)年に土地交換で北海道大学の用地となるまで札幌市が所有する土地だったのです。つまり、この「氷室」は北海道大学が建てたものではなく、札幌市が建てたもので、土地と一緒に管理されるようになった後、植物園の活動にあわせて利用されてきたものなのです。



写真2: 資材庫として利用している氷室の上層

「氷室」の歴史的価値

それでは、この「氷室」にはどのような歴史的価値があるのでしょうか?この「氷室」はもと札幌市の病院が利用するために建てられたものでした。現在、市立札幌病院は北大キャンパスの西の桑園駅付近にあります。明治24(1891)年から平成7(1995)年までの間は北1条西8丁目、つまり植物園の南側にありました(写真3)。この病院において、冷蔵・冷凍庫が利用できなかった時代の夏期冷却のためにこの氷室が利用されていたのです。

建物としての「氷室」は、植物園で利用するために北側に入りが設けられたり、内部の部屋割りが変更されるなど多くの改

変が行われたため、歴史的建造物としての価値が高く評価されているわけではありません。また、劣化も進んでいることから、植物園の将来構想では現在の形で利用・保存し続けることは難しいと考えています。しかし、病院の旧用地にはNHKのビルが建設され、ここに病院があったことを示すものは、「氷室」のみになってしまいます。北大だからこそ残し続けられた古い建物が、札幌市の歴史の証人として、また過去の医療活動を知る材料としての価値を有していることは間違いありません。北大キャンパスがもつ歴史という魅力と最先端の研究・教育設備とをどのように両立させてゆくかがこれからの課題となつてゆくのではないのでしょうか。



写真3: 植物園の外からみた氷室
道路を挟んだ左手に市立病院があった

心とからだ健康を考える

大学院教育学研究院 准教授

渡邊 誠



人と人との支え合いの、目に見えない深さを思い知らされるのは、相手が亡き人になった時でしょうか。人が生きてゆく中で出会った最も強いストレスの一つは、家族をはじめとする近しい人を亡くした時でしょう。米国の研究では、結婚相手を亡くすことが、一番のストレスであるとされています。

肉体としては滅んでも、相手の存在が遺された人のこのろの中に生き続けるとは、よく言われることですね。生き続けるのみならず、遺された文章や絵などを通じて、亡き人との対話が長く続いていくこともあると思います。遺稿集や追悼記を読むとは、そういった対話の過程をある程度にせよ、共有することを許される体験でしょうか。それは不思議な体験だと思えます。故人の子どもの頃の作文、写真、友人による追悼文などが収められていて、個人のアルバムのように思えることもありま

故人であるはずなのに、不思議な親しみがわいてきます。亡き人の親しいころの友ができて出版したという遺稿集もありま

す。そして読み終えた後には、この書物を通じての出会いが、故人が亡くなったが故に起こったということをどう考えたらよいのかという、微かな痛切さをももなう感覚が残ります。

遺稿集、追悼集に共通しているのは、亡き人の最良の部分が、浄化されるようにして表れていることだと、私は感じます。心理学的支援に関連して、「人を、最低の部分で評価してはならない」という戒めがあります。その人を最良の部分でとらえるということのもっともすぐれた例は、もしかすると近しい人による追悼文かもしれませぬ。遺稿集や追悼集を読むと、故人が、読み手であるこちらの中心



に住まうようになるという、そんな感覚を覚えることもあります。長く余韻を残す感覚です。遺された人たちの中には、もつとしっかりと亡き人が根を下ろして、内側から支えているのではないかと思います。

東日本大震災の時、傷みの激しい遺体を復元するというボランティアに携わった納棺師の方がいました。表情筋の状態から、生前の笑い皺まで復元してしまうというのは、驚異的な、技術を越えた技術だと思えます。極限状況の作業の日々に、自分自身を癒すために、復元した一人々々の顔を絵に描いたものが、『おもかげ復元師の震災絵日記』として出版されています。私は、どうして絵を描くことで癒されたのだろう、と不思議に思いました。穏やかにほほ笑んでいる顔を、深夜に一人ずつじつと眺めているうちに、気がついたことがあります。みんな、なにか言いたそうなのです。そして言いたいことは、一人々々違うように感じられます。ところ

ころが一人だけ、言いたそうなきが伝わってこない絵がありました。身元不明のため法的に手を触れることが許されず、復元できなかったという幼い女の子の、想像で描かれた復元後の顔でした。復元の作業というは、亡骸を通じての故人との濃密なコミュニケーションなのでしょう。絵を描くことを通じて、亡き人の一人々々が著者を支えたのではないかと、思いいたったとき、私はとても腑に落ちたような気がしました。

こころの中の死者が生者を支えるということとは、思った以上に普遍性の高いことなんでしょう。遺された人がときに言う、亡き人が自分を守ってくれているとは、そういうことなのかもしれないと、考えをめぐらせています。

ほけんのお話

私たちの生活にはいつも様々なリスクが潜んでいます。今回は「個人賠償責任保険」についてのお話です。

日常生活には、たとえば次のような事故が起きる可能性が誰にもあります。

- 子どもが友人宅で、はしゃいでテレビにぶつかり、液晶画面が割れてしまった。
- 自転車で行中、歩行中の女性と衝突してけがをさせってしまった。
- マンションの給湯管から水漏れしてしまい、階下の天井にシミを作ってしまった。
- 自分が飼っている犬が、人にかみついてけがをさせってしまった。
- 子どもがキャッチボールをしていて、誤って隣の家の窓ガラスを割ってしまった。

このような事故で、法律上の賠償責任により支払わなければならない賠償金を補償してくれるのが「個人賠償責任保険」です。

他人にけがさせた場合、治療代のほか、休業損害、慰謝料、死亡や後遺障害の場合は逸失利益が加わります。自転車走行中の事故でけがをさせたときには、賠償額が1,000万円、5,000万円という事例も少なくありません。

このようなリスクに備えるため、自動車保険や火災保険の特約として個人賠償責任保険に加入するようにしましょう。単体で加入するより保険料は割安になります。自動車保険や火災保険の保険証券を確認しましょう。すでに特約として付いているかもしれない

今からでも、自動車保険や火災保険の特約として加入する手続きをしましょう。途中変更が可能です。一家庭に一つの契約で同居の家族は全員被保険者になります。重複にならないようにしましょう。

個人賠償責任保険は、単体で加入しても保険金額1億円で年間保険料2,000円ぐらいの保険ですので、ぜひ加入するようにしたいものです。



新入生歓迎企画「新友のつどい」報告

学生委員会では、4月2日(月)・3日(火)の2日間、「新友のつどい」という新入生歓迎企画を体育館にて行いました。北大に入学する新入生を対象に、友人作りのサポートをすることや、北大のことをゲームやクイズを通じて知ってもらい新たに始まる大学生活をイメージしてもらうこと等を目的に開催しました。2日はおよそ570人、3日はおよそ770人近くの新入生が参加し盛況でした。

新入生には初め、班に分かれてもらいました。その後班内の新入生同士で交流する企画や班対抗型のゲームを通じて、初対面の新入生同士交流を深めてもらいました。また、班で北大構内を探検する企画も行いました。北大構内を実際に巡りながら、所々にあるクイズを解くことで、北大の広さを実感してもらったり、北大のことを色々知ってもらったりしました。

参加者アンケートによれば、本当に多くの新入生が「新友のつどいは楽しかった」と答えてくれ、中には「北大を知れた」「様々な学部の人と交流できた」「知り合いがいなかったので友達もできて楽しかった」等と書いていた新入生もいました。実際、終始笑顔で楽しそうに企画に参加している新入生の姿が数多く見受けられました。



多くの新入生が体育館に集結しました



班ごとに企画の1つである「かるた」を楽しんでいます

後日、一部の新入生に向けて、新友のつどいで築いた交友関係は少しでも続いているかどうかを尋ねたところ「新友のつどいで仲良くなった友達とは今も友達」「同じ班だった人と偶然同じクラスになり、その後も交友関係が続いている」等といった声がありました。

新入生同士の「コネクション」が入学後もある程度続いていることは、私たち学生委員会にとっても大変うれしいことです。参加してもらった新入生の方々には、今後も「新友のつどい」で築いた交友関係を大切にしてほしいです。

学生委員会

■春合宿

5月11日～13日に北海道立青少年体験活動支援施設 ネイバル砂川で春合宿を行いました。春合宿では、新入生委員に生協・学生委員会のことや活動していく上で必要なことを学んでもらうこと、上級生委員にこれまでを振り返り、新たな視点での活動の仕方について考えてもらうことを目的にしています。更に合宿という場を有効に活用するため、レクや野外炊飯など新入生が学生委員会に親しみを持てる企画をたくさん行いました。これから新入生委員・上級生委員ともに、春合宿での経験を活かして活動していきますので、よろしくお願ひします。

■ほくフェス

6月1日(金)～3日(日)に行われる北大祭に合わせて、ほくフェスという北大祭活動を行います。昨年度までのごみ問題やごみ分別について緑日を開いたり展示をしたりする「ごみナビ」とは違い、北大祭という場での雰囲気や学生の興味などを一度見て考え直し、今年度は「地産地消」について活動します。北海道の地産地消についてみんなに知ってもらいたいと考えていることまでも目指しており、そのために多くの団体が予定です。また今年度も北大祭事務局と協力して、北大祭のごみ分別の呼びかけは行います。昨年度までとは一層違った北大祭活動となるでしょう。お楽しみに！



■学生委員会連絡先

<http://hokudai.gi.web.fc2.com/>
@HU COOP GI CS
gakusei@coop.hokudai.ac.jp

院生委員会

■院生組織委員会

4月7日(土)「新入院生歓迎会」を中央食堂2Fで立食形式で開催しました。

参加者は新入院生委員を含む64名でした。他大学からの進学者も多かったため、昨年は51名の参加でしたので、参加者は大幅に増えました。当日は自己紹介から始まり、クイズなど行い、研究科を越えた交流が生まれました。また、その後に行なわれた懇親会も40名以上の参加があり、さらに盛り上がりました。参加者からも「研究科を越えた友人が出来た」「参加して良かったです」等嬉しい言葉をいただきました。来年もぜひ行ないたいと思います。

6月には院生交流ジンパも開催します。さらに交流を深めることが出来れば、と思います。



■院生委員会連絡先

<http://www.hokudai.seikyounet.jp/insei/>
Email: hokudai_insei@coop.hokudai.ac.jp

北大生協きぼうの虹フォトコンテスト開催!!

テーマは

「北大百景 2018」



◆募集要項◆

- ①参加資格：北大生協組合員であること
- ②募集期間：6月4日(月)～6月22日(金)
- ③賞：特選1名、入選5名
- ④副賞：北大生協電子マネーチャージ
(特選5000円分、入選2000円分)
- ⑤募集方法：
 - (1) Webサイトから応募
北大生協ホームページ、トップページのバナーをクリック。もしくは右QRコードから。
 - (2) 応募フォームにて必要事項を入力の上ファイルを添付ください。
 - (3) 添付画像ファイルは5MB以内としてください。デジタルカメラ・スマートフォン等の媒体は問いません。
 - (4) テーマ：「北大百景 2018」
北大に関するもの。人物が映る場合は、ご本人の許可を得て投稿して下さい。

⑥結果発表：きぼうの虹377号紙面(カラー)にて発表。
特選は表紙用写真として使用させていただきます。

⑦ご注意：

- (1) ご応募はお一人様一点に限らせていただきます。
 - (2) 入選された作品は、「きぼうの虹」紙面に掲載させていただきます。
- また、秋には応募写真を展示する写真展を開催する予定です。紙面発表・展示会の際は、応募者の所属・学年・氏名等を掲載させていただきますので予めご了承下さい。
なお、応募写真を生協の広報物等で使用させていただくこともございますが、その場合はあらかじめ使用についての許可をお願いすることになります。

⑧お問い合わせ先：

生協会館3F北大生協理事会室
Tel: 011-746-6218
E-mail: seikyou@coop.hokudai.ac.jp
担当：きぼうの虹フォトコンテスト係

フォトコンテストwebサイトQRコード▶



留学生委員会

■今春学期の新人留学生・歓迎イベント次々開催・大盛況!

①4月9日(月)「北大主催春学期留学生オリエンテーション」で生協と留学生委員会の紹介とウエルカムパーティーへのお誘いをさせていただきました。

②4月27日(金)「新入留学生ウエルカムパーティー」開催

20の国と地域から赤ちゃん連れを含む総勢120名以上の留学生が交流を楽しみました。ハラルで用意した飲食物は瞬間に果物の皮とお菓子の包み紙のお皿になりました。中古自転車譲渡の説明を行ない、ビンゴゲームで大盛り上がりその後、集合写真を撮影し、日用雑貨品を自由に選んだ参加者達は笑顔で帰っていきましました。物品提供にご協力いただいた北大内外の皆様、ありがとうございました。

③5月14日(月)「中古自転車無料譲渡事前説明・手続き会」開催

走行マナーの説明や防犯登録申請手続き、自転車事故事例を交えた学生賠償責任保険も紹介、譲渡会当日の詳細をお伝えしました。

④5月20日(日)「中古自転車無料譲渡会」開催

70人が念入りに自転車を運び笑顔で帰って帰りました。スタッフの半数はラマダン中での出から水を含め飲食不可のイスラム教徒でしたが、終始笑顔で対応し作業を進めました。



教職員委員会

■教職員総代会議・学内7ヶ所での8月を除く毎月1回、昼休みを利用して開催しています。生協の営業報告の後、教職員の皆様に利用者の立場から色々なご意見をうかがっています。

4月は10日、12日、5月は8日、10日に開催しました。

■教職員委員会・毎月1回、18時～19時半に開催しています。総代会議で上がった組合員の声についての検討、きぼうの虹の編集・発行について討議しています。
4月は12日、5月は10日に開催しました。

■「きぼうの虹」..この冊子です。教職員委員会が編集し偶数月に発行しています。

今号から「文化財(予備軍)へ行こう」とタイトルを変え、文化財に指定されていない建物などにスポットを当てて1年間連載していただくことになりました。ことによると、こちらの方が「へえー」感が強いかもしれませんね。

【編集後記】

きぼうの虹376号をお届けします。

今年もフォトコンテストを開催します。今号はその告知もあるため半分カラー印刷です。年々認知度が上がっているためか、作品のバラエティーも豊かになっていて応募作品を観るのが楽しみです。たくさんの方の応募をお待ちしています。